教えて！おぐりん先生！



「投資のレシピ」 特別版

みなさん、こんにちは。株式会社和キャピタルの小栗です。

当資料は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポートに連載しているコラム「投資のレシピ」（第１回～第24回）を集めたコラム集です。投資の心得を分かりやすく解説します！



愛称：おぐりん先生

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

当ファンドは、マザーファンド（GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド）への投資を通じて、先進国株式、先進国の国債を中心にグローバルな分散投資を行います。マザーファンドの運用については、株式会社和キャピタルの投資助言を受けます。

当ファンドのお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■ 設定・運用は

GCI Asset Management

株式会社GCIアセット・マネジメント
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第436号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人投資信託協会

■ 投資助言会社

Nagomi Capital

株式会社和キャピタル
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第2924号
金融商品仲介業者　関東財務局長（金仲）第847号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会

※　最終ページの「当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項」をご覧下さい。



目　次

1	投資は、料理と同じ！	P.4
2	相場がいつも正解である。自分の考え通りに動かない時は、自分が間違っている。	P.5
3	負けたことを人のせいにしない。	P.5
4	もうはもうなり。まだはまだなり。	P.6
5	物事はシンプルに考えよう。	P.6
6	分散投資って、本当に有効？	P.7
7	相場感の軸はブラさない。	P.8
8	肉には赤ワイン、魚には白ワインってほんと？ ～ 市場の常識は疑ったほうが良い時もある ～	P.8
9	相場にキリが良い数字は意味がない。　～ 買いたい水準に幅を持たせましょう ～	P.9
10	スプリング・メソッド（バネ理論）～ 相場が下落した時の心得 ～	P.10
11	含み益は益ではありません。実現させて初めて利益になります。	P.11
12	不要だと思って捨てた情報が重要になっているかも・・・？ ～ レコードからCDになり、今またレコードが見直されている ～	P.12

※　最終ページの「当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項」をご覧下さい。



13 先手必勝・後手でも必勝 P.13

14 後悔はしない。反省すること。 P.14

15 予想外の突発的な出来事が起こったら、どうすれば良いの？
そんな時こそ深呼吸
～ 先の見えない事への不安心理が相場を必要以上に変動させる ～ P.15

16 相場が上昇するには「デトックス」が必要です。 P.16

17 「適温相場」の適温って・・・？
湯冷めして風邪を引かないようにしましょう。 P.17

18 コロナショックの荒れ相場から学ぶ
～ 相場が下落した時に買うためには余裕資金が重要 ～ P.18

19 相場変動の大きな時は、投資額は小さくても大丈夫！
相場変動の小さな時は、投資額は大きくても安心！ P.19

20 人工知能（ＡＩ）と人間はどちらが投資上手か？ P.20

21 「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ような事になっていませんか？ P.21

22 投資しなければ損はしないと考えているかもしれませんが、目減りすることがありますよ！ P.22

23 思い込みは禁物！既成概念や常識にとらわれず柔軟な発想をしましょう！ P.23

24 「待つのも相場」 P.24

※　最終ページの「当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項」をご覧下さい。

1 投資は、料理と同じ！

投資は料理と似ています。みなさんが鍋料理をする時は、食材や調味料を丹念に選び、鍋に入れて煮込みますよね。途中で味を確かめ、理想の味と異なれば、調味料を足したり、水を入れたりしながら調整していると思います。それは、投資のやり方とまったく同じなんです。

料理にはアイデアや創作力も大事ですが、その前提として料理の基本を知っていなければなりません。

料理の「さ・し・す・せ・そ」です。投資も当然ながら基礎的な知識など基本が大事です。

しかし、基本さえ知っていれば良いわけでもありません。同じ食材やレシピを使っても料理人が違えば料理の出来栄えは違うものです。一番大事なのは最終的に美味しい料理を作ることです。

そのためには、妥協してはいけません。何度も何度も味を確かめ、自分でやれることはすべてやることです。投資をする前に一所懸命に考えて決断すれば、結果はどうであれそれなりの納得感はでるものです。それが、次の投資に好影響を及ぼします。



投資の「さ・し・す・せ・そ」

さ **さあ、相場を楽しもう。**

し **シンプルに考える。**

す **すぐに結果を求めない。**

せ **急いては事をし損じる。**

そ **そうは言っても、最後は自分で決断する。**



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2018年12月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

2 相場がいつも正解である。自分の考え通りに動かない時は、自分が間違っている。



みなさんが投資判断をする時は、新聞や経済誌等いろいろな情報を集めて分析し、経済評論家などのコメントを参考にしながら、自分なりの相場展開を予測して売買していることと思います。

思い通りの相場展開、言い換えれば、「含み益」になるような相場展開の場合は、自分の相場観は素晴らしいと自我自賛していることでしょう。しかし、自分の思いと逆方向に相場が動いた場合、すなわち、「含み損」になった場合は、相場の動きがおかしいと思っているのではないでしょうか？

「いずれ自分の思ったようになってくれるだろう」のような考えが、売却のタイミングを遅らせ、大きな損失につながることを肝に銘じておくことが重要です。

相場はいろいろな要因で動きますが、売買は今の相場価格でしかできません。ここまできたら買うとか売るとかという考えは、単なる願望「絵に描いた餅」でしかありません。

自分の考えが間違ったことを素直に認めることが、今後の投資判断をする上で一番大切であることを自覚してください。

3 負けたことを人のせいにしない。



みなさんは、ここで売るとか買うとかいう決断はどの様にしますか。「投資のプロ」は、様々な経済分析資料を読んだり、チャートを研究したり、著名な経済評論家の意見を参考にしたりします。変わったところでは、占星術などを参考にしている人もいます。

なぜ、そのようなことまで真剣にするのでしょうか？

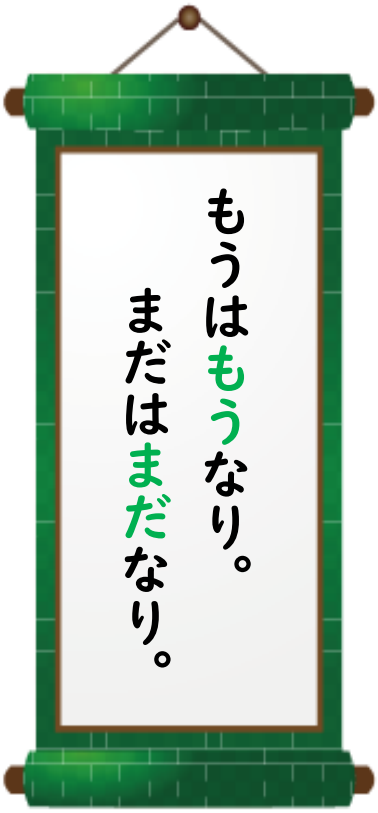
それは、相場がこれからどっちに動くかは誰にもわからないからです。まさに、神のみぞ知る、です。そんな中で、「投資のプロ」は自分で売買の決断をし、行動をしなければなりません。それは、かなり勇気のいることですし、結果に対する責任もすべて自分に降りかかります。ですから、売買することの背中を押してもらうためにいろいろなことを工夫し実践しているんです。

ところで、みなさんは売買の決断を自分でしていますか？よくあるパターンは、勝った時は自分の力で、負けた時はあの人がこんなこと言ったからとか、新聞に書いてあったからとか思っていませんか？そんな考え方をしていては、投資家としての成長はありえません。すべて、自分のこととして考え、決して人のせいにしてはいけません。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年1月末基準および2019年2月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

4 もうはもうなり。まだはまだなり。



自分の決断を信じて、

みなさん、相場の格言で「もうはまだなり。まだはもうなり。」という言葉を聞いたことがありませんか？言葉の意味は、もう底だと思えるようなときは、まだ下値があるのではないかと一応考えてみてください。反対に、まだ下がるのではないかと思うときは、もうこのへんが底かもしれないと反省してみてはどうですかということです。実際、「投資のプロ」と言われる人のほとんどがこの言葉を使います。

事実、心の中でまだ買うのは早いと思っているときに相場は上がっていき、まだ上がるだろうと思っていると下がってしまう。そういう経験をお持ちの方は多いだろうと思います。

しかし、この格言は、一歩間違えると「買いと思ったら売り、売りと思ったら買い」というようにとらえられがちです。投資の世界で自己否定するようは判断をしてはいけません。自分の投資なんですから、自分の決断を信じて売買をしましょう。「もうはもうなり、まだはまだなり」です。

5 物事はシンプルに考えよう



最近時の情報化社会の進展には目を見張るものがあります。世界中のどこにいても、パソコンや携帯で誰でも同じ情報をほぼ同時に知ることができます。そして、自分から知りたい情報があれば、ネットで検索してすぐに手に入れることができます。つまり、みなさんのまわりには、みなさんの意思にかかわらず様々な情報がうずまいているわけです。

投資をする上で、いろいろな情報を入手することが大切なのは言うまでもありません。しかし、その中には、不必要な情報もたくさん含まれています。そこで一番重要なことは、取り込んだ情報を選別し、要らない情報をいかに外に出すかです。つまり、必要な情報だけをいかに残すかということです。

料理にたとえれば、美味しい料理をつくるために、鰹節のうま味だけを抽出し出汁をとるのと同じです。そうすると、不純物がなくなって透明でシンプルなものだけが残ります。そして、みなさんの投資判断が明確になります。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年3月末基準および2019年4月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

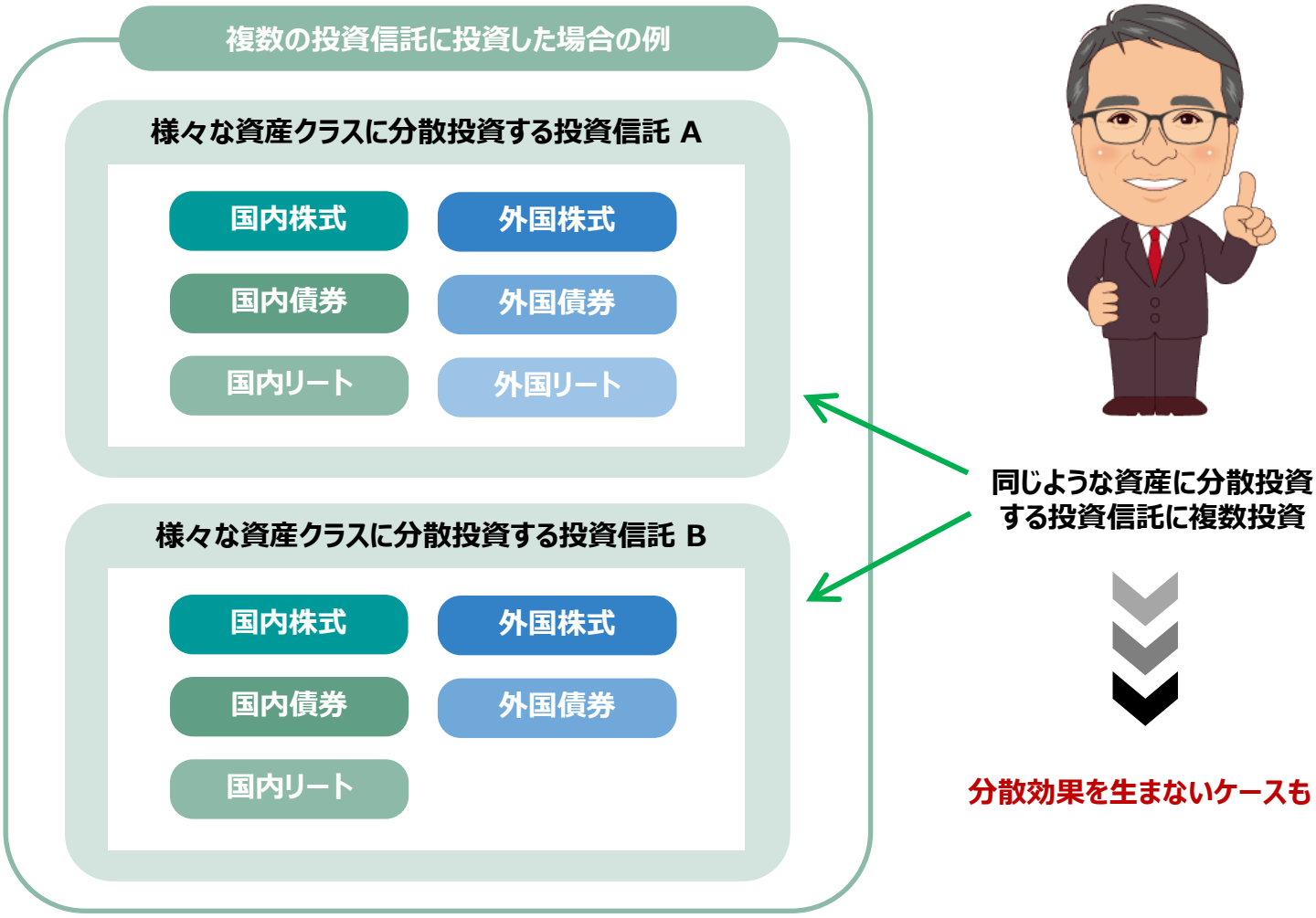
6 分散投資って、本当に有効？

「分散投資」って聞いたことありますよね？「分散投資」とは、投資先や投資するタイミングを一つに限定しないで、複数の投資先（資産分散）にいろいろなタイミング（時間分散）で投資することをいいます。一つの資産に集中投資をしてしまうと、その資産の値動きだけで運用資産全体が左右されてしまうことになります。ですから、投資をする際は、「長期投資」と合わせて、投資先や投資するタイミングを分散する投資を心掛けることが大切です。

では、分散投資をしておけば、相場が大きく上下しても必ず損失は小さく抑えられるのでしょうか？

いつでもそうとは限りません。たとえば、2008年9月のリーマンショックの時は、大半の資産が暴落し、世界中のほとんどの投資家が大きな損失をだしました。ですから、分散投資をしているからといって安心しないで、日々市場の動きをチェックしておくことが重要です。

さらに、分散投資でよく間違える事例としては、「国内の株式・債券・リートや外国の株式・債券・リートなどに分散投資する投資信託」をいろいろ買っているから、投資は分散されていて安心だと勘違いすることです。確かに、個々の投資信託は分散投資されリスクは軽減されているかもしれませんが、投資信託の投資先をよくみないと、ほとんどの投資信託が同じような資産に分散投資していて、結果として分散効果がないケースもあります。購入した投資信託の運用の中身をよく理解して投資するようにしましょう。



※　上記は例であり、全てを説明するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※　上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年5月末基準）に掲載したコラムです。

※　当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

7 相場感の軸はブラさない

みなさん、電車に乗っていて、となりに止まっていた電車が動き出したのに、自分の乗っている電車が動き出したような錯覚に陥ったことはありませんか？

相場でも同じように錯覚することがあるんです。それは、いろんな情報を見たり、いろんな人の意見を聞いたりして、「上がるかもしれない？下がるかもしれない？」と自分の相場感があやふやで定まっていない時に起こります。相場はほとんど動いていないのに、自分の相場感が大きくブレているため、相場が大きく動いたように錯覚するんです。マジックのように、動いていない物が動いているように見えるんです。言い換えれば、「相場に振らされている」状態ですから上手くいくわけがありません。そして、このような錯覚をしていたことは、後からわかることなので打つ手はありません。ですから、投資をするときは、自分の相場感の軸をしっかり定めてから始めるようにしましょう。

8 肉には赤ワイン、魚には白ワインってほんと？
～ 市場の常識は疑ったほうが良い時もある ～



みなさんの中には、ワイン好きの方もいるかと思いますが、ワインを飲まない方でも「肉料理の時は赤ワイン、魚料理の時は白ワイン」って話は聞いたことがあると思います。ワインと料理の相性が語られるときは、もはや常識のようになっています。しかし、それは常に正解なのでしょうか？

以前、日本を代表する著名なソムリエと会食した時に、「肉料理は赤、魚料理は白って聞きますが本当ですか？」と質問したことがあります。その答えは、「世界中に多種多様なワインがあり、肉料理に合う白もあれば、魚料理に合う赤もあります。ソムリエの仕事は、その料理に一番合ったワインを選び提供することです。」でした。さらに言えば、赤ワインは常温、白ワインは冷やして飲むと思っている方も多いと思いますが、あくまで、フランスやイタリアの常温です。気候の違う日本で飲む赤ワインは冷やして飲んだほうが良い時もあります。

市場の常識にも同じことが言えます。例えば、「景気が良ければ株は買われる」「円高になれば株は売られる」などです。言われていることは正論ですが、市場ではいつも正解とは限りません。景気が良くてもすべての株が買われる訳ではないですし、株が売られる局面もあります。

ですから、市場の動きを考える時には、市場の常識をベースにしながらも、ソムリエのように今の市場の動きに一番合った選択をすることが大切です。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年6月末基準および2019年7月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

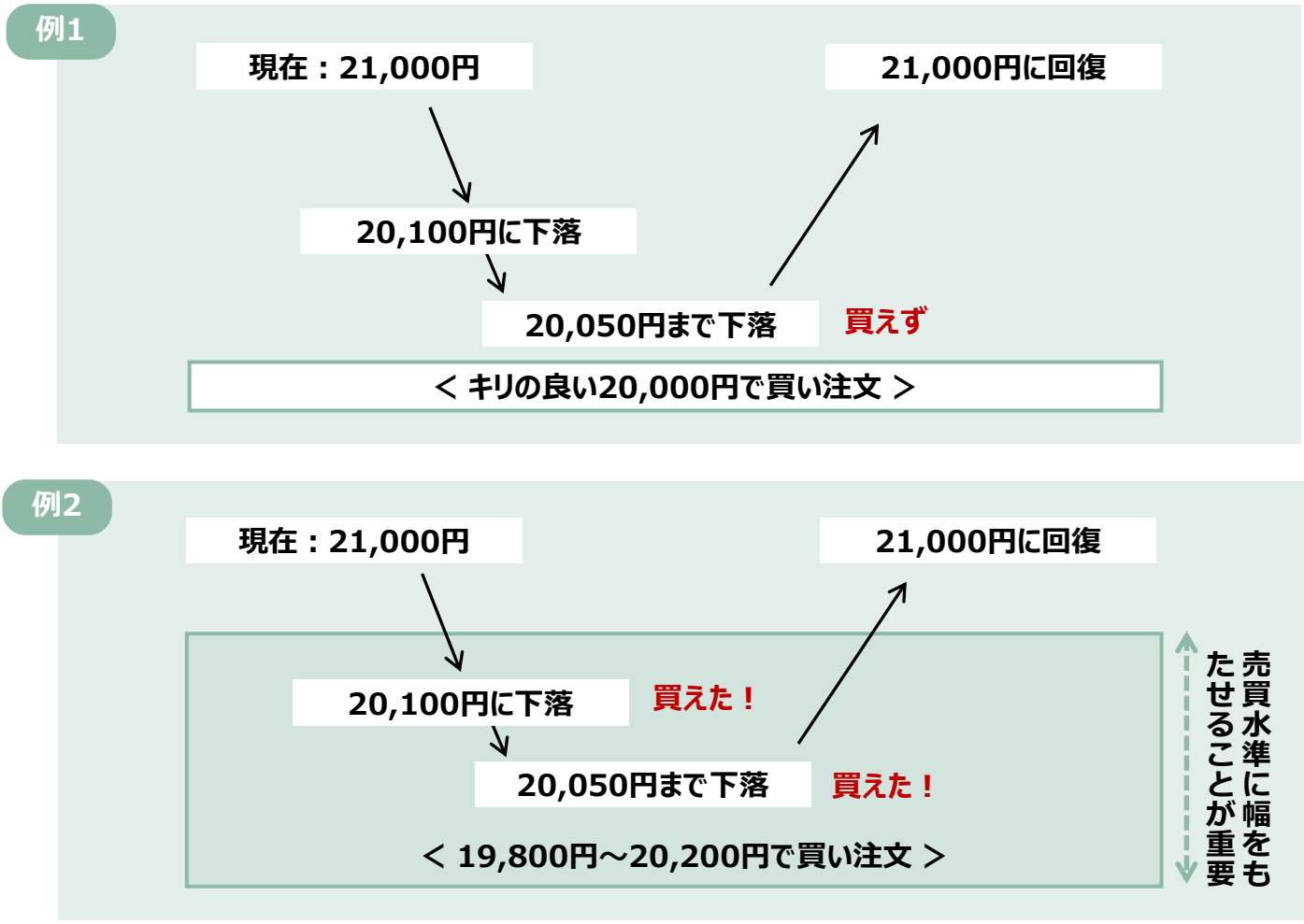
9 相場にキリが良い数字は意味がない。～ 買いたい水準に幅を持たせましょう ～

みなさんは、株などの買いたい水準をどのように決めていますか？たとえば、日経平均株価が21,000円の時に、今後の相場の動きを予想して20,000円にきたら株を買うと決めたとします。そして、相場が予想通り20,100円まで下落を続けたとします。いよいよ買いのチャンス到来です。キリの良い20,000円で買い注文を出して待っていると、20,050円まで下落したあと上昇し、株価は21,000円に戻ってしまいました。このような経験をした方は多いのではないでしょうか？

とかく日本人は節目節目を大事にしますから、キリの良い数字を好きな人も多いと思います。しかし、世界中の市場参加者は、日本人ほどキリの良い数字にはこだわりませんし、ＡＩなどはなおさらです。

自分が想定した水準で売買をするためには、キリの良い数字にこだわりすぎてはいけません。20,000円近辺（たとえば19,800円～20,200円）で買えれば良いと柔軟に考えるようにしましょう。ですから、買いたい、あるいは売りたい水準はキリの良い数字にしないである程度の幅を持たせ、その中にきたら何回かに分けて段階的に買い、最終的に当初想定した金額になるようにしましょう。それが、買い損ないや売り損ないをして、あとで後悔をしない最善のやり方です。

株価指数（日経平均株価）に投資したと仮定した場合の売買例



※ 上記は例であり、全てを説明するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年8月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

10 スプリング・メソッド（バネ理論）～ 相場が下落した時の心得 ～

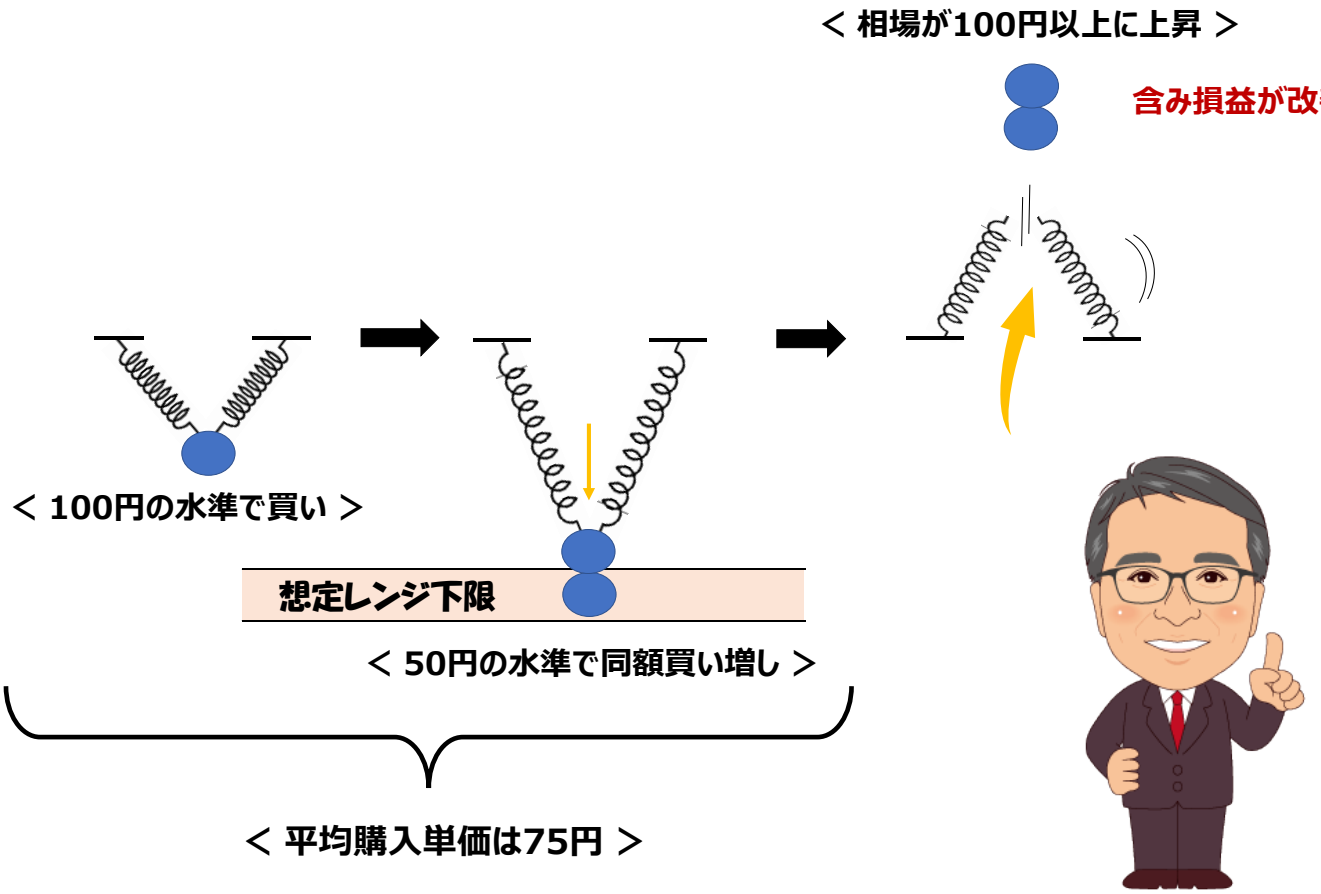
相場は時間をかけて必ずバネのように上下運動を繰り返します。バネは下に伸ばしてから手をはなすと勢いをつけて上に跳ねあがりますよね。ですから、バネが伸びたところでおもり（株式とかの買い）をつければ、そのおもりは勢いよく上昇し、高く上にあがります。このバネの特性は、運用における相場下落時の対応と含み損益の改善に置き換えることができます。

相場が下落して含み損益が悪化している時は、言い換えれば、バネが伸びている状態なわけですから、自分が買うと決めたレベルでしっかり買う（バネにおもりをつける）ことが大切です。たとえば、100円で買ったものが50円に値下がりしたとします。50円で同額買い増せば、運用額は倍になりますが平均単価は75円になります。そして、伸びたバネが勢いよく上昇（相場が100円以上に上昇）すれば、含み損益は大幅に改善することになります。ですから、このような相場局面は、含み損益を改善させる絶好のチャンスですし、そのやり方次第でその後の売買がやりやすくなります。

ただし、相場が下落していく局面で、早くおもりをつけすぎると、その重みで上に戻りきらないので、どのタイミングでどれだけおもり（株式等の買い）をつけるか注意が必要ですが。

これが、「スプリング・メソッド（バネ理論）」～相場が下落した時の心得～です。相場が下落した時こそ、その先を見据えて冷静に行動することが大切です。

スプリング・メソッド（バネ理論）のイメージ



※ 上記はイメージ図であり、全てを説明するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年9月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

11 含み益は益ではありません。実現させて初めて利益になります。

みなさんは、自分の買った価格より相場が上昇したら、「あっ、儲かった」と思ってはいませんか？確かに、含み益にはなっていますが、あくまで仮定の話です。ですから、相場が下落すれば含み益が減るどころか、場合によっては含み損になってしまいます。まさに、「とらぬ狸の皮算用」です。投資を継続し利益を積み上げていくには、含み益は実現させることが重要です。いったん含み益になったのに、最後に損失を実現してしまうようなことがあってはなりません。

ただし、これは短期的な投資の場合だけです。短期的な投資なのか、長期的な資産形成のためなのか、投資の目的によって考え方は違います。将来のための「守り育てる投資」の場合は、相場の変動に一喜一憂することなく、気長に熟すのを待ちましょう。熟成した肉の味は格別ですし、年代物の赤ワインによく合いますよね。

短期的な投資の場合、
含み益を実現させることが重要。

将来のための「守り育てる投資」の場合、
相場の変動に一喜一憂せず、気長に熟すのを待ちましょう。



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年10月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

12 不要だと思って捨てた情報が重要になっているかも・・・？ ～ レコードからCDになり、今またレコードが見直されている ～

投資のレシピ第５回「物事はシンプルに考えよう」で、取り込んだ情報を選別し、要らない情報をいかに外に出すか、つまり必要な情報だけをいかに残すかが重要だと書きました。しかし、時代背景や市場環境が変化すると、以前は不要だと思って捨てた情報が重要になっていることがあります。

例えば、レコードからCDへの変化がそうです。アナログレコードで音楽を聴くと、音質が一定ではないし、雑音も入り、音が飛んだりもしました。そこで、正確な音質を求めてレコードに代わってCDが開発され、雑音などが取り除かれたクリーンな音で音楽を聴くことができるようになりました。

しかし、正確性を求める余り、CDでは人が耳では聞き取れない高低音がカットされ音域が狭くなり、レコードにあった雑音が消され音に深みがなくなってしまいました。CDは、一見無駄を省き、高品質になったように思われますが、結果として薄っぺらい均質的な音になってしまい、今やレコードの良さが見直されています。

投資を考える上で、本質を見極めることが大事ではありますが、不要な情報を捨てすぎても本質が見えなくなってしまう可能性があります。また、市場環境の変化によっては、捨てた情報が見直されて重要になることもあります。過去をもう一度振り返って、再び考えてみることで、捨てた情報の重要性に気付き新たな知恵が生まれるかもしれません。



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年11月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

13 先手必勝・後手でも必勝

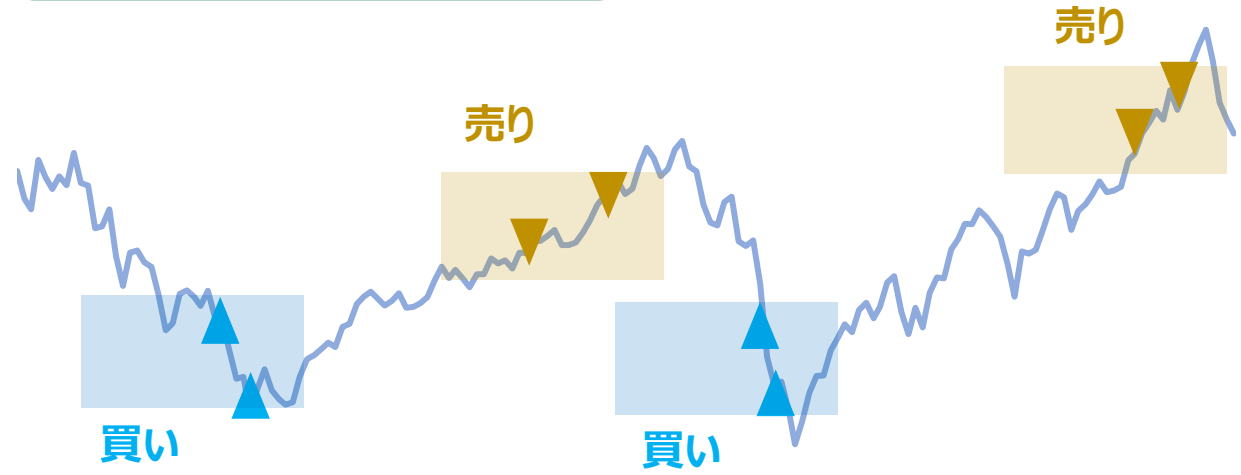
　みなさん、相場というものは、「上がったら下がり、下がったら上がります」。ですから、相場が反転したときには、早めに売買することが勝利の秘訣です。もし、売買の決断が遅れたら、高値で買ったり、安値で売ることになり損失につながりやすいです。

　そこで、早めに決断するためにはどうすればいいでしょうか？それには、事前の準備しかありません。相場がここまできたら売買しようと前もって決めておき実行することです。それでも、モヤモヤしていて売買しそびれることもあると思いますが、その場合には追いかけて売買するのはやめて、逆に、買いそびれた場合は売りのタイミングを、売りそびれた場合は買いのタイミングを探りましょう。

　加えて言えば、相場の天井と底値をピタリと当てるのはなかなか難しいです。ですから、相場の天井・底値あたりを何回かに分けて売買することをお勧めします。



相場変動と売買タイミングのイメージ



※　上記はイメージ図であり、全てを説明するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※　上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2019年12月末基準）に掲載したコラムです。
※　当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

14 後悔はしない。反省すること。

みなさん、こんな思いよくしますよね？投資をした後で、「あそこで買っておけば良かったなあ。あの時利益を出しておけば良かったなあ。」と。まさに、「後悔先に立たず」です。相場の世界で、「タラ、レバ」は禁句です。

では、どうしてそういう事が繰り返し起こってしまうのでしょうか？それは、失敗したことを反省しないからです。反省とは、「自分のよくなかった点を認めて、改めようと考えること」です。そして、反省するとは、「反省した後に、行動すること」です。つまり、失敗を糧に行動して初めて反省したことになります。「買われたらもっと買われる。売られたらもっと売られる。」そして、「一番底値で買い、一番高値で売りたい」と思いがちですが、特別な要因がない限り相場というものは適正な価格に戻ります。ですから、自信を持って買うと決めたところで買い、売ると決めたところで売ってください。自分の決めた通りに売買できるようになることが、みなさんが相場の達人になるための第一歩です。

反省とは、
「自分のよくなかった点を認めて、改めようと考えること」

反省するとは、「反省した後に、行動すること」



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年1月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

15 予想外の突発的な出来事が起こったら、どうすれば良いの？そんな時こそ深呼吸

～ 先の見えない事への不安心理が相場を必要以上に変動させる ～

過去を振り返ると、突然、予想もしていない世界を揺るがすような出来事が起こっています。例えば、2001年9月11日の米国同時多発テロや2011年3月11日の東日本大震災が思い出されると思います。最近でいえば、中国の武漢から世界に感染が拡大している新型コロナウイルスがあります。

みなさんは、投資をする時に過去の事象や相場の動きを分析し、今後の相場の方向性を予想すると思います。しかし、過去に例を見ない出来事が起きた時はどうでしょう？先の見えない事への不安心理から相場が大きく変動しているはずです。そのような時は、おそらく冷静さを失い、何も考えられなくなり、早めに損失確定を考えているか、慌てて売却していると思います。

みなさん、そんな時こそ「投資のレシピ」第1回で書いた「投資のさ・し・す・せ・そ」の「せ」を思い出してください。「せ・・・急いては事をし損じる。」です。

現在の新型コロナウイルスについても不安心理で相場が大きく変動していますが、ワクチンができれば落ち着くはずです。そして、市場参加者は、その間の製造業や観光業等に与えた影響を検証してから相場の方向性を決めるのですから、それまでは慌てないで大きく深呼吸して冷静に投資の方針を考えましょう。

投資の「さ・し・す・せ・そ」

さ	**さあ、相場を楽しもう。**
し	**シンプルに考える。**
す	**すぐに結果を求めない。**
せ	**急いては事をし損じる。**
そ	**そうは言っても、最後は自分で決断する。**



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年2月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

16 相場が上昇するには「デトックス」が必要です。

私たちの体には、食べ物の添加物や、外の排気などといった化学物質による毒素が、知らないうちに溜まっています。そして、それらの毒素を溜め込むことで、免疫力の低下による体調不良を引き起こしてしまいます。ですから、体から毒素を出す、すなわちデトックスをすることが体調維持には必要です。



相場においても同じことが言えます。たとえば、最近の新型コロナウイルスの感染拡大をキッカケとした、世界的な株価の暴落がそうです。昨年の10月頃から始まった日本株の上昇は、米国株の上昇に連られたり、金利が低いことから株式に資金が流入したことによるものです。しかし、日本の消費増税、米国と中国の貿易戦争、北朝鮮によるミサイル発射、米国とイランの関係悪化など、市場にはたくさんの相場下落要因がありました。市場参加者は、そのような悪い材料（市場の毒素）に目をつぶり株価を押し上げたため市場は体調不良を起こしていました。すなわち、市場の安定に必要な「デトックス」を怠っていたわけです。そこにウイルスの感染拡大が発生し、不安心理から株価は暴落したのです。

市場には、いつも相場に良い材料と悪い材料が混在しています。相場が下落している時は、悪い材料を織り込む、すなわち毒素を出しながら市場の環境を整えている状態です。そして、市場の環境が整ったらいよいよ投資再開です。「投資のレシピ」第10回「スプリング・メソッド（バネ理論）～相場が下落した時の心得～」でも書きましたが、相場が下落した時こそ、その先を見据えて冷静に行動することが大切です。





※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年3月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

17 「適温相場」の適温って・・・？湯冷めして風邪を引かないようにしましょう。

みなさんは、新聞等で「適温相場」という言葉をよく目にしませんか？「適温」って、何となくわかったような、わからないような曖昧な言葉ですね？市場では、「緩やかな景気回復」と「緩和的な金融環境」が併存することにより、相場が強気すぎず、弱気すぎず、ちょうど良い加減にあることをいいます。つまり、「相場の勢いの程度」に着目した表現です。

最近で言えば、2017年にみられたように、日銀など世界の中央銀行が市場にお金を大量に供給したことによって、余ったお金がリスクのある資産に向かいやすくなり、株価が右肩上がりで上昇したような相場展開です。このような「適温相場」の状況の時は、少々の事では株価は下落しませんし、買うタイミングを間違えても結果的には儲かる事が多いと思います。

ただし、このような快適な状況がずっと続くことはありません。「適温相場」が続いた後は、何かのキッカケで、相場が大崩れする可能性の方が高いです。言ってみれば、適温40度のお風呂に入っている時は気持ち良いですが、湯上り後は湯冷めして風邪を引くみたいな感じですかね？

もともと、上がる材料があった訳でもなく、株価が上がるから買わないと損みたいな感じで上昇した相場ですから、下げる幅も大きくなるのは当然です。株価が上がり続けるからと言って安易に株を買うのではなく、しっかりとした考えを持って、過大に投資することのないように注意しましょう。



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年4月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

18 コロナショックの荒れ相場から学ぶ ～ 相場が下落した時に買うためには余裕資金が重要 ～

コロナショックにより大きく揺れ動いた相場に対し、売ろうと思っていても売れずにじっと見ていた人、そろそろ底値だと思ったけれど余裕資金がなくて買えなかった人、新聞報道などからコロナ感染の収束が見通せない不安感から損失を出しその後に買えなかった人、それに対し、投資ができる余裕資金を持っていたため相場が下落した時に買うことができ含み益が増えた人など、いろいろな経験をしたと思います。その中には、リーマンショックのような荒れた相場を経験した人やこのような急落相場は初めての人もいるでしょうが、特に初めて経験する人は思い通りにならない相場に大変な苦労をしたことと思います。

そうした中、今回のコロナショック相場は、みなさんに多くの教訓を残してくれたと同時に、投資には何が一番大事かを教えてくれたと思います。それは、相場の下落時に買うための余裕資金の重要性です。現状、余裕資金は銀行預金などが多いと思いますが、金利が低く何も利益を生まないから全額投資しないと無駄だと考えていませんでしたか？実は、銀行預金なども市場の大きな揺れに対しその振動を抑え投資家の資産を守る耐震・免震の効果があり、相場の変動に左右されない重要な投資商品のひとつです。ですから、常に預金等の余裕資金を効果的に残しながら相場の変動に臨機応変に対応し、分散投資することが「守り育てる運用」には重要です。

例えば、・・・



余裕資金を持っていれば、
相場の変動に臨機応変に対応することも可能です。

※　上記は例であり、全てを説明するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

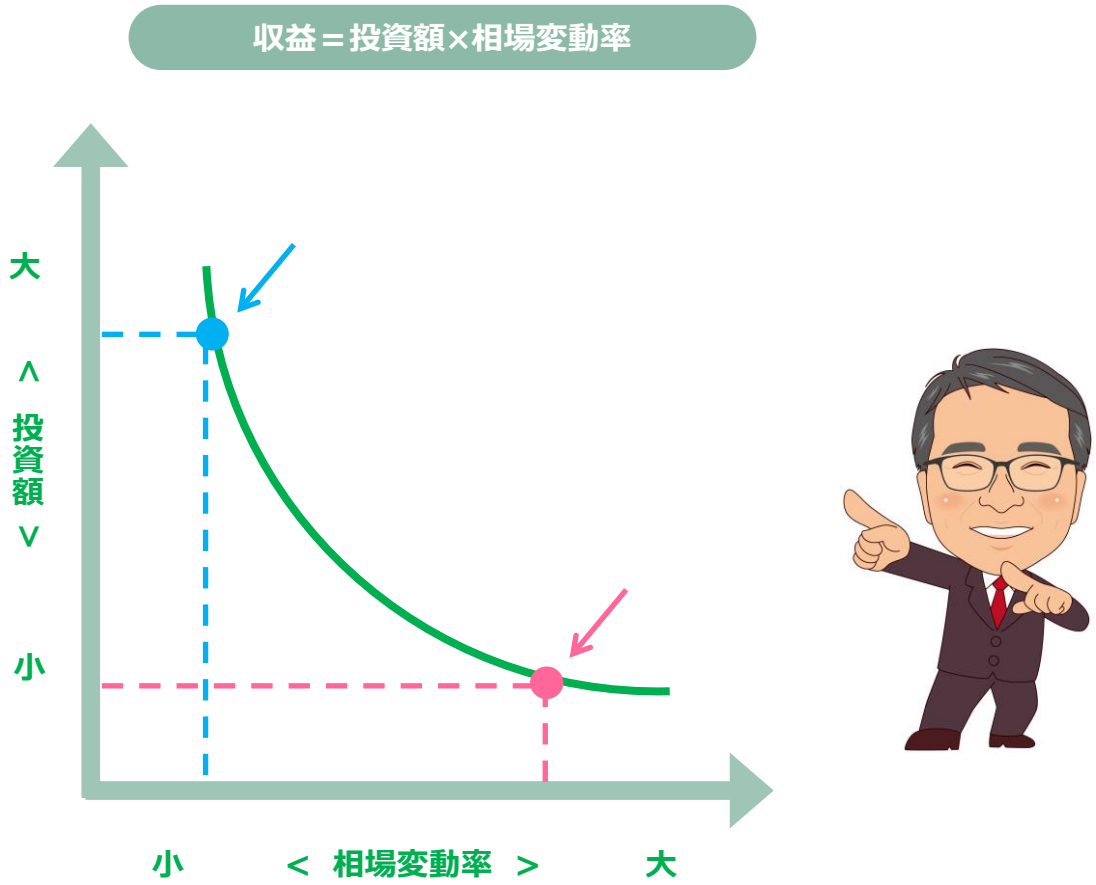
※　上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年5月末基準）に掲載したコラムです。
※　当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

19 相場変動の大きな時は、投資額は小さくても大丈夫！
相場変動の小さな時は、投資額は大きくても安心！

みなさんは、投資する時の金額はどうやって決めていますか？もちろん、投資の総額は、余裕資金の範囲内でなければなりませんが、個々の投資額は、相場の状況によって変えていますか？意外と、いつも一定額を投資しているケースが多いのではないでしょうか？これからは、この様な公式を思い浮かべながら投資額を決めるのが良いと思います。

収益＝投資額×相場変動率ですから、同額の収益を得ようとする場合は、投資額と相場変動率は反比例の関係になります。つまり、コロナショックのような大きな出来事で相場が大きく上下した場合は、小さな投資額でも期待した収益を得ることができると同時に、相場が大きく下落した時の損失も小さく抑えることができます。逆に、相場を大きく変動させるような出来事がない場合には、投資額を大きくしないと期待した収益を得ることができませんし、相場変動が小さいですから投資額が大きくても損失は抑えることができます。

投資は、相場変動をよく見ながら投資するタイミングを計るのが重要なのは言うまでもありませんが、相場変動の状況によって投資額を臨機応変に変えることによって、投資のタイミングの選択肢が増えることも忘れないでください。



※ 上記はイメージ図であり、全てを説明するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年6月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

20 人工知能（ＡＩ）と人間はどちらが投資上手か？

人工知能（AI）とは、人間の知的ふるまいの一部を人工的に再現したものです。コンピューターが経験から学び、新たな事象に順応することで、人間が行うように柔軟に仕事をすることができるようになります。さらに、これらのテクノロジーを応用し、大量のデータからパターンを認識させることにより、チェスで名人に勝ったり、自動車を自動で運転したりできるようになります。このように、ビジネスや生活における様々な難しい仕事をこなせるようにコンピューターをトレーニングすることができます。



では、人工知能（ＡＩ）に投資を全部任せれば勝てるのでしょうか？必ずしもそうではありません。

最近は市場業務においても、人工知能（ＡＩ）を使った投資が注目されています。確かに、高速で大量の取引が可能となり短期的な売買には適しているかもしれませんが、守り育てる長期投資には不向きです。なぜかと言うと、人工知能（ＡＩ）は、大量に情報を収集し瞬時に判断しますが、その中には間違った情報も含まれます。その結果、目先の事象にとらわれ過ぎて、相場の大きな流れに対応できないからです。

ですから、守り育てる長期投資には、情報を的確に判断し間違った情報を排除できる人間の方が投資上手と言えると思います。



※　上記はイメージ図であり、全てを説明するものではありません。

※　上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年7月末基準）に掲載したコラムです。

※　当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

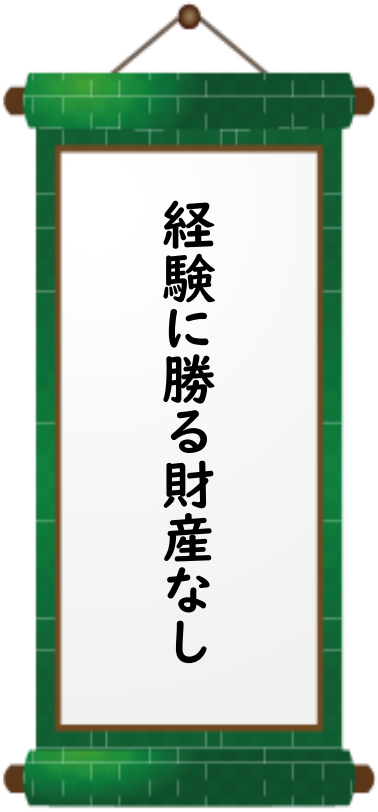
21 「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ような事になっていませんか？

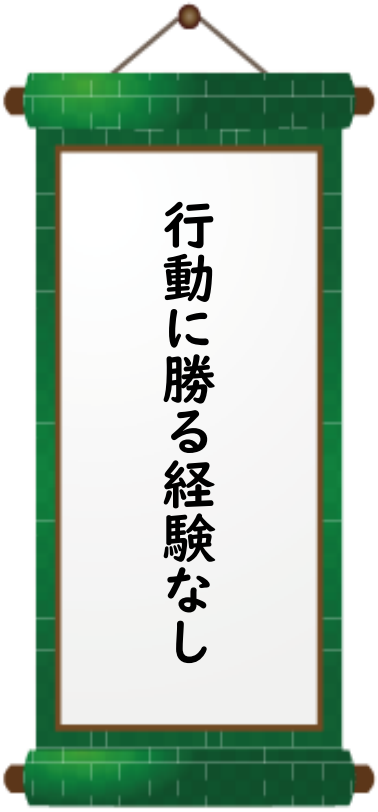
コロナショックによる株価等の大暴落により、みなさんが保有している株式や投資信託なども大きく値下がりし、ヒヤッとしたのではないでしょうか？2008年に起きたリーマンショックの時よりも下落スピードが速く、何かしようにも何もできない状況だったと思います。その時、相場はいつ何時何が起こるかわからないものだから、投資をする際はより慎重に検討しなければいけないと感じたのではないでしょうか？現在は、各国の政府や中央銀行がいろいろな財政金融政策を実行していることや、ワクチン等の開発によるコロナ終息後の経済回復の期待から、株価も下落前の水準近くまで戻りつつあります。

しかし、現在でもコロナウイルスの感染拡大は続いていて、とてもコロナ終息後の経済回復を見通せる状況ではないのに、株価が上昇しているからと言うだけで、何も考えずに買わないと儲け損なうと感じていませんか？このような行動は、同じ間違いを繰り返すことになります。

みなさんは、今回のコロナショックのような、100年に1度しかないような貴重な体験をしたのですから、それを無駄にせず今後の投資に活かすためにも、例えば、投資資産全体のバランスを見直したり、今回のような相場急落時にも安定的に運用していた投資信託を購入するなど投資の考え方を再検討してはいかがでしょうか？　「経験に勝る財産なし」「行動に勝る経験なし」です。







※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年8月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

22 投資しなければ損はしないと考えているかもしれませんが、目減りすることがありますよ！

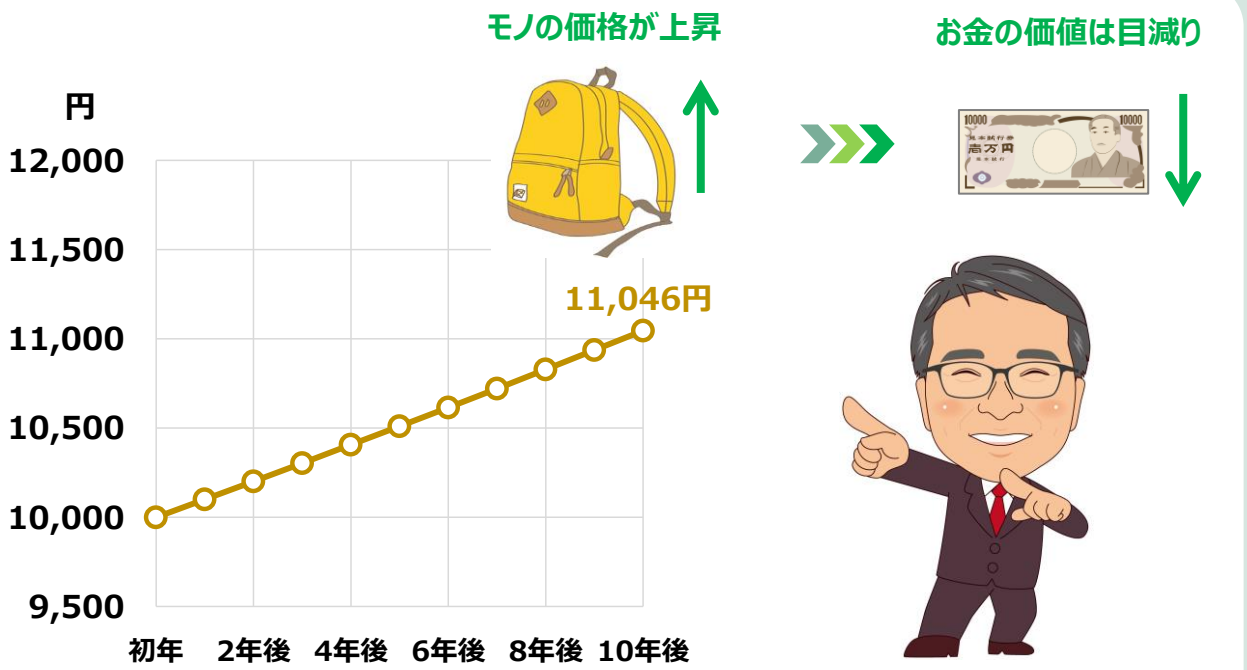
相場は様々な理由により上がったり下がったりします。最近で言えば、コロナショックによる株の暴落が記憶に新しいですね。そのような状況を目の当たりにすると、相場に怖いイメージを持ち、投資しなければ損もしないから止めておこうと思っている人が多いのではないでしょうか。

果たして、本当に「投資しなければ損はしない」のでしょうか？しかし、常にそうとは言えません。例えば、今１万円で買えるものが、10年後も1万円で買えるでしょうか？もし仮に、物価が毎年１％上昇したとすると、10年後に同じものを買うには物価上昇分を加えて1万１千円必要になります。それは、手元にあるお金の価値が目減りして損をしたのと同じことになります。ですから、将来自分の手元にあるお金を目減りさせないような投資をすることが必要になります。

特に、老後資金などは長期に渡る投資で、将来の安定した生活のための大事なお金ですから、大きな損をして目減りさせる訳にはいきません。そこで投資する上で重要になるのが、長期的かつ安定的に収益を上げて、手元の資金を堅実に増やしてくれる運用商品を選定することです。ですから、リスクを抑えながら中長期的かつ安定的に収益を上げるバランス型の投資信託などが有効だと思います。何にも投資しなければ損もしないと考えている方は、お金を目減りさせないためにも少しずつ始めてはいかがでしょうか？

※　上記文章において「物価が毎年１％上昇したとすると、10年後に同じものを買うには物価上昇分を加えて1万１千円必要になります。」と記載しておりますが、金額部分は千円未満を非表示としています。円単位まで示す場合、下記グラフの通り「11,046円」となります。

物価が毎年１％上昇した場合のシミュレーション



※　上記はシミュレーションであり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

※　上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年9月末基準）に掲載したコラムです。

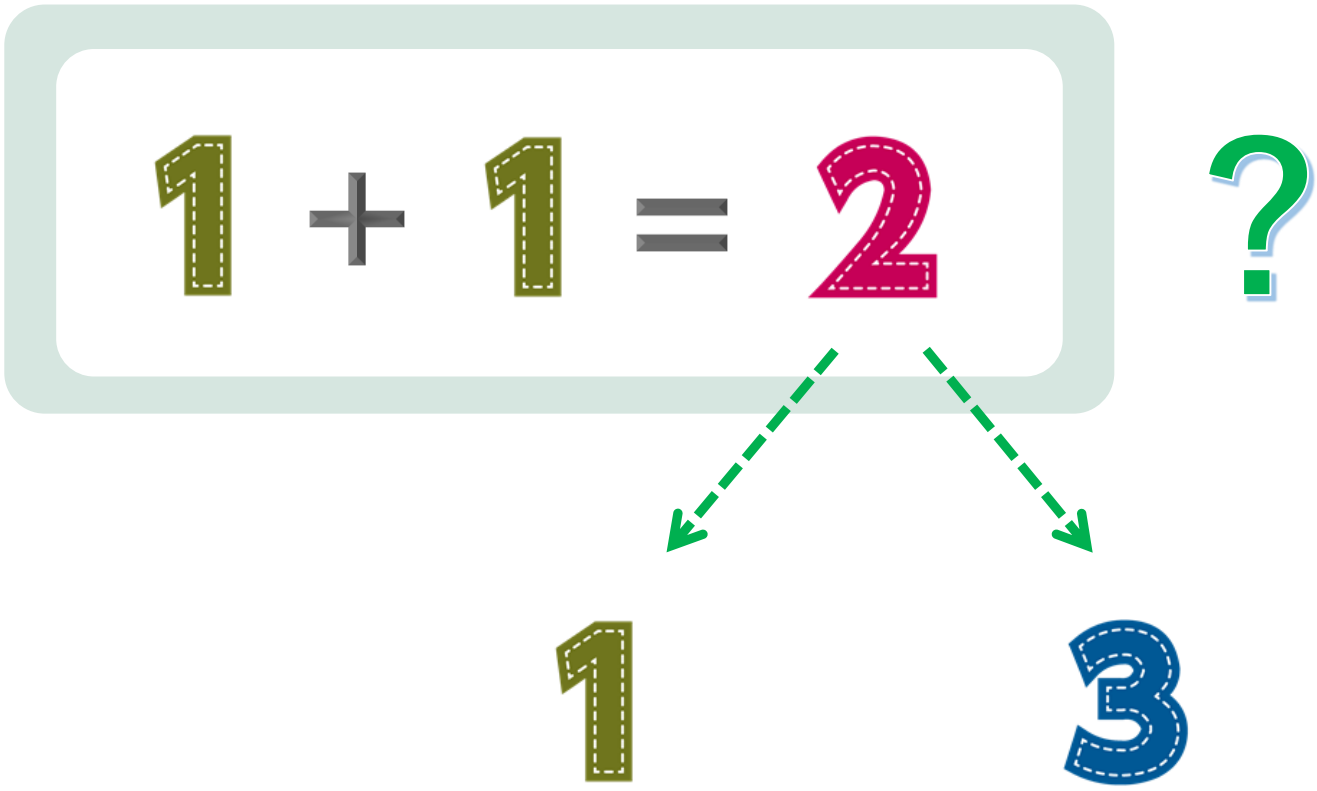
※　当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

23 思い込みは禁物！
既成概念や常識にとらわれず柔軟な発想をしましょう！



みなさん、１＋１の答えがわかりますか？ほとんどの人が躊躇なく２に決まっていると答えると思います。果たして正解でしょうか？数学的には、１＋１＝２が正しいとされています。しかし、すべてがそうとは限りません。たとえば、1人＋1人は2人ですが、ひとつの作業を2人でやったらいつも２倍の早さで出来るでしょうか？2人の能力がうまくかみ合えば3倍の早さになることもありますが、かみ合わない場合は2人で作業しても同じ時間がかかったりします。すなわち、１＋１＝３だったり、１＋１＝１ということがあり得るということです。この違いは、１＋１を計算問題と「思い込み」２という答えを出したことによるものです。

大人になると、たくさんの知識を習得し、いろいろな経験を積みます。それは、生活をしていく上で重要なことではありますが、それらのことが既成概念や常識となり大きなミスの原因になることがあります。相場においても、相場の知識や経験による「思い込み」により大きな判断ミスにつながるケースがあるので、既成概念や常識にとらわれず、常に現状を理解し柔軟な発想をして投資しましょう。



※　上記はイメージ図であり、全てを説明するものではありません。

※　上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年10月末基準）に掲載したコラムです。

※　当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

24 「待つのも相場」



　みなさんが投資を考えたとき、たった三つのことしかできないことを知っていますか？それは、「買う」「売る」そして「待つ」ことです。では、この中で、一番大事なことは何だと思いますか？ほとんどの方々は、もちろん「買い」だと考えてはいませんか？確かに、投資は「買い」から始まりますから、少しでも安く買うことが大事なことは当然です。しかし、「投資のプロ」は、「待つ」ことを一番大事にします。それは何故かと言いますと、「待つ」という判断ができるときが、一番中立的に相場の動きが見えている状態だからです。買いたいと考えた瞬間に、あなたは買うタイミングばかり考えていませんか？それでは、あせって買ったり、買い遅れたりしてしまいます。投資をする時は、常に「待つ」という感覚を大事にしながら売買のタイミングを計り、ここだと思ったら思い切って売買しましょう。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年11月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

ご挨拶

**　おぐりん先生の「投資のレシピ」をご愛読いただきありがとうございます。**

**　2020年は、コロナショックにより春先に株価が暴落したり、自粛生活を強いられたりと忍耐の1年でした。2021年は、コロナが終息し安心して新しい日常生活が送れることを期待しています。**

**　引き続き、分かりやすく、投資の心得が自然と身につき、少しでも皆様の投資のご参考になるようなレシピを掲載してまいります。よろしくお願いいたします。**

おぐりん先生



※ 最終ページの「当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項」をご覧下さい。

「なごみの杜」は、和キャピタルの助言を受けて運用する「初めての公募投資信託」です。

当ファンドは、基準価額の変動リスク（＊1）を年率2%程度に抑えながら、年率1.2%程度（＊2）の安定的な投資収益の確保を目指した運用を行います。

＊1：価格の値動きの大きさを表します。この値が小さいほど、価格変動リスクが小さく低リスクを意味します。
＊2：信託報酬控除後のものです。なお投資収益は、中長期的に目指す目標であって、その達成を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドの特色

1. マザーファンド※への投資を通じて、先進国株式、先進国の国債を中心にグローバルな分散投資を行います。
   ※ GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）
2. マザーファンドの運用については、株式会社和キャピタルの投資助言を受けます。

> **投資助言会社：株式会社和キャピタル**
> 和キャピタルは地域金融機関を初めとする機関投資家（特定投資家）に対して、流動性を確保しながら機動的運用を行うことで、安定的かつ持続的な収益を確保することを目指す投資助言サービスを提供しています。

3. 実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。
4. 原則、毎年2月および8月の各10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき、分配を行います。

投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下（上昇）した場合は値上がり（値下がり）します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資信託証券において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図りますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分等のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	投資対象となる債券等の発行体において、万一、元利金の債務不履行や支払い遅延（デフォルト）が起きると、債券価格は大幅に下落します。この場合、当ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。また、格付機関により格下げされた場合は、債券価格が下落し、当ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。
デリバティブ取引のリスク	当ファンドは有価証券および金利関連のデリバティブ（先物取引の金融派生商品）に投資することがあります。デリバティブの運用には、ヘッジする商品とヘッジされるべき資産との間の相関性や流動性を欠く可能性、証拠金を積むことによるリスク等様々なリスクが伴います。実際の価格変動が見通しと異なった場合に、当ファンドが損失を被るリスクを伴います。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※ 最終ページの「当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項」をご覧下さい。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入価額に**1.1%（税抜1.0%）**の率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.05%**の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用（信託報酬）	純資産総額に対し**年率0.88%（税抜 年率0.80%）以内** 信託報酬率は、ファンドの純資産総額の残高に応じて変更します。

純資産総額	100億円以下部分	100億円超部分
信託報酬率	年率 0.88% （税抜 年率 0.80%）	年率 0.825% （税抜 年率 0.75%）

その他の費用・手数料	以下の費用・手数料がファンドから支払われます。 • 監査法人に支払われるファンドの監査費用 • 有価証券等の売買時に発生する売買委託手数料 • 外貨建資産の保管等に要する費用 • ファンドに関する租税 • その他信託事務の処理にかかる諸費用　等 ※ 上記の費用・手数料は、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

※ 投資者の皆さまにご負担いただく手数料等の合計額については、当ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

お申込みメモ

購入・換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。（ファンドの基準価額は1万口あたりで表示しています。）
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入・換金の申込受付不可日	ニューヨークの銀行休業日、ニューヨーク証券取引所の休業日およびロンドンの銀行休業日 ※ 詳しい申込受付不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信託期間	2018年6月20日（設定日）から2023年2月27日まで ※ 受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。
決算日	原則、毎年2月および8月の各10日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の２つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度（NISA）および未成年者少額投資非課税制度（ジュニア NISA）の適用対象です。配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

※ その他の項目につきましては、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

販売会社

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
岡崎信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第30号	○			
株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第60号	○			
株式会社福井銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第2号	○		○	

※　お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
※　販売会社は今後変更となる場合があります。

収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は、前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、株式会社GCIアセット・マネジメント（以下「当社」といいます）が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
- 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。



『なごみの杜』特設サイトのご案内



マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）の特設サイトでは、
ファンドの特色や運用状況、分配実績のほか、月次レポートや臨時レポートを掲載しております。

URL

https://nagominomori.info/

QRコード

※ パソコン・スマートフォン共通